

〔1〕

第 84 号

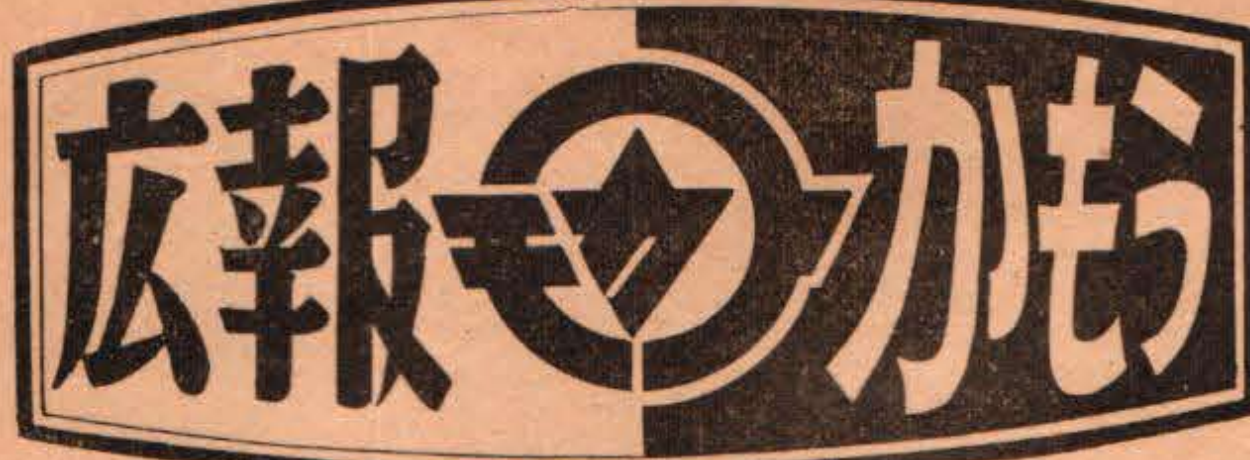
広報かもろ

町内の動勢

40年11月25日現在

総人口 11,535 人
男5,449人 女6,086人

世帯数 3,246 戸

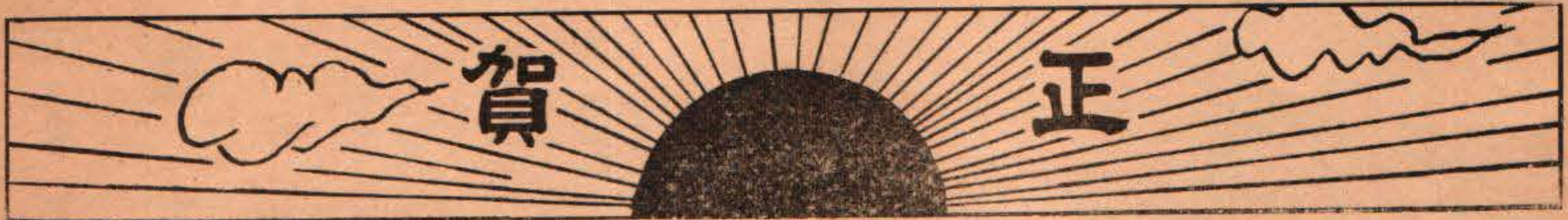


No. 11

昭和 41 年

1 月 1 日

蒲生町役場



のびゆく蒲生町・城山より望む

希望に燃えて 我が郷土は静かに 黎けて行く

迎春 新年おめでとうございます

瑞雲たなびきて、山も川も草も木も万物は皆新たに、こゝに
1966年の輝かしい新春を迎えて謹んで御健康と御幸福をお
祝い申し上げます。現代のI年は中世紀の百年に匹敵すると
言われておりますように今日の産業、経済、文化の発達はめ
ざましいものがあります。私達の蒲生町もその近代化のうず

の中にあつて土木、建築に福祉事業にそして教育の振興に或
は又農業の近代化に抜き手を切つて進んでおります。

「I年の計は元旦にあり」今年も又全町一体となつて更に一
歩前進の設計のもとに大いに決意を新たにして勇往邁進愈々
近代的な蒲生の建設に努力いたしたいものであります。

竹内・川瀬

の両君（蒲生中）

「沖縄に若人の森をつくる
青少年の集い」に派遣!!

東京オリンピック大会を
長く記念するため、沖縄那
覇市奥武山公園に「若人の
森」を建設することになり
この大会に日本スポーツ少
年団を代表して参加するこ
とになりました。

はるか海のかなた沖縄に
渡つて、派沖の目的完遂ま
で日本スポーツ少年団代表
として又薩摩健児として、
意気と誇りをもって頑張つ
て来てくれるよう拍手をお
くりたいものです。

○結団式と激励大会（名山
小）市中パレード（一月
三日）

○鹿児島港出発（一月四日）
○若人の森をつくる青少年
の集い（一月五日～一月
八日）

○鹿児島港着（一月九日）

〔沖縄派遣の竹内、川瀬君〕



1966年を迎えて

昨年 に倍する 飛躍を

町長 小山田 政弘



町民の皆さん明けましておめでとう御座います。

年末ともなれば来年は来年こそはと意気込んで計画をたてるのですが、とうとう昭和四十年度も暮れてしまいました。そして徳川時代の俳句の大家其角の句に行く年や壁に恥じたる覚え書というのがあります、

覚え書とは計画書のことです。計画書を壁にはって置いたが、暮になってみるとどれもこれも思うように出来ていなくて恥ずかしいというのです。年まさに暮れんとし、この嘆あるは古今多くの人の常情でありましようが、願わくは脚下の一步一步を堅く踏みしめて、顧みて何の悔なき生活、町



政の実現に努力を積み重ねていかねばならぬと思ひます。一年の計は元旦にありというでもありますので、この際一言所懐の一端を披瀝しても御協力をいただきましたと思ひます。

を近代的に改めること、町内各機関の総合調整をはかる気運の醸成をはかり、小我を捨てて大我につく、襟度をもって夫々の立場で努力すること、町の指導的立場にある者達が、個人的感情をもって対立することは町民の迷惑であると思ひます。

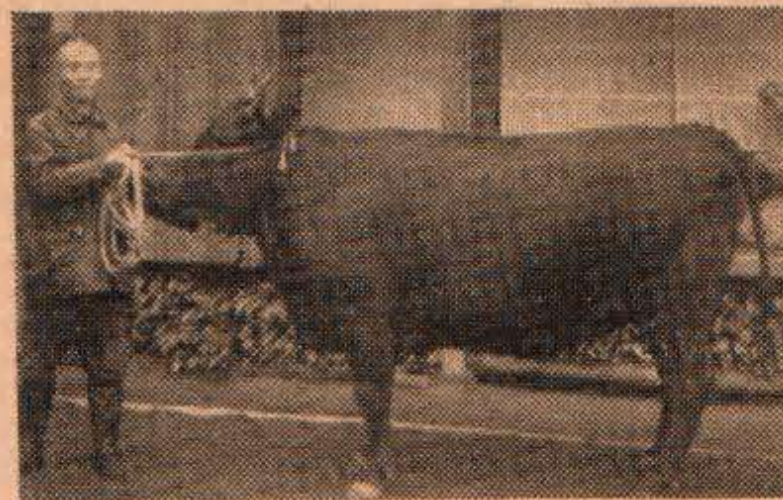
かくして町民の福祉をはかり、民生の安定を期すること、地方自治町政の目標でなければならぬと信じます。なお最後に申し上げたいことは、町の自主財源は総予算の二十パーセント程度に過ぎないのでありまして、後の八〇パーセントは、国や県の特定財源に依存している事実であります。町報の財政白書を十分閲覧いた

さしたいと思ひます。一弛一弛ということがありますが、節約はやがて健全財政の道であることを銘記していただきたいと思います。明けてゆく昭和四十一年度は我が蒲生町にとりまして昨年に倍して飛躍する年でありましように強くお願いいたしまして私の年頭のあいさつとします。

県肉畜共進会に入賞

北中 栢 良右衛門氏

出品牛(はつえ号)



この牛は去る十一月開かれた始良郡肉畜共進会に於て一等一席を獲得し今回郡代表として県共に出品したものです。

本年度は生産牛中に於ても先に開かれた県畜産共進会において漆地区の田之上敬蔵氏の出品牛が一等賞に入賞し続いて今回の肉畜に於ても上位入賞ができた本町畜産振興に大きな役割を果たしていただいた事は誠に同慶にたへません今回の出品牛(はつえ号)は昭和三十七年七月生れ体高一二四cm胸囲二〇四cm体重五八kgの測定成績で共進会終了日に於て高値をもって大阪向け出荷されました。

公德心を高めよう

子どももおとなも

- ①きまりを守りましよう。
- 交通のきまりを守りましよう。
- チリをきまった場所にすてましよう。
- ②公共物をたいせつにしましよう。
- 乗り物のエチケットを守りましよう。
- すすんでよいことをしましよう。

除夜のかね

大みそかの夜のことを、除夜と呼ばれております。

一年の除かれる夜という意味だそうです。

いよゝ年の終りに近くなつた夜十二時少し前になると、あたりの静寂を破って「ゴーン」と、遠くかすかに鐘の音が聞えて来ます。

「百八の鐘がつかれて……」といわれるが、百八のぼんのうを除くことになぞらえられて

除夜の鐘と言ひ、最後の一ツきが、新年になるように打たれます。

古人の句
鐘ついてことしへ
おりる男かな
というのがあります。

しろう。

○年よりをいたわりましよう。

○困っている人に手助けしましよう。

年頭に当って

議長

脇田 勇 吉



の熱意は勿論であります。要は町民各位の理解と協力がなければ解決出来ぬ問題であります。

昭和四十一年度の新春を迎へるに当り謹んで皆様の御健康と御家庭の御繁栄を御祈り申し上げます。

古い言葉ではありますが「一年の計は元日にあり」と申されました通り、夫々御計画をお樹ての事と考へます。それを最後まで頑張る努力を御願ひ致します。

さて昭和四十年度蒲生町として計画致しました事も比較的順調に参つたと考へます。皆様の御協力に対して厚く御礼申し上げます。しかし大事な問題として残された農業構造改善事業又新しい林業構造改善事業、尚公民館組織の問題、或は中学校統合問題など大きな大事な問題が控へているのであります。

これら案件の解決には当局

私達議会としても出来得る限り皆々様の御意見を拝聴してよりよき方向で解決致したいと考へています。何卒町民各位の御協力を御願ひ致す次第です。更に最近の農村は極めて不安定な状態で現在も多数の方々が都市に出稼され農村

新年のあいさつ

教育長

安楽 光 章



はさびれる一方で若い方々には魅力のない農村となつています。勿論懸案の農林業構造改善事業を完遂することも一方法であります。更に農村の振興についても十分検討しなければと考へています。議会に於いても積極的な意欲をもって此の問題に取り組みたいと考へています。町民の皆様との御協力をお願いする次第です。そして住みよい明るい蒲生町を建設したいと考へています。所感の一端を述べて新年の御挨拶と致します。

果をあげつつありますことは御同慶に堪えないところであります。

町を挙げて教育熱が高まりつつある根底には、歴史に語られる蒲生兵児精神と愛郷心の筋金が入っているような気がしてならないのであります。それが躍進の一途をたどっている現状の底流をなしていると思われ

じております。学校も家庭も一つ心になって、ひとりひとりの子どもを見守っていく年であれかしと祈るものであります。

次に社会教育の面での課題は、地区公民館への促進ではないかと考えられます。

従来部落単位に事が運ばれ教育活動においても場当たり式、断片的になり勝ちで、ともすると視野が狭いために、自主的に地域の課題を発見、解決する方途を講ずる機会をとらえることが困難であると思われ

新しい年を迎え、一歩前進して地区公民館を推進し、それぞれの地域の特殊性に即応し、行政を教育的にうけとめ、その浸透をはかりまた一方地域住民の要望を反映させる等、計画的、継続的にあらゆる面の学習を推し進めたいものと念願して止まないものであります。

今日人づくり、町づくりの論議が盛んとなり、教育によせられる世の期待はまことに大きいものがあります。科学の発展、経済の発展についても教育の果たす役割はきわめて高く評価されているのであります。教育

いた足跡をふり返ってみますと、教育施策の充実に心身共に健康で情豊かな社会人の育成、教育者の積極的な教育活動の推進を基盤として、より良いもの、より高いもの、より進んだものを望んで参つたのであります。皆様の御多幸と御健康を心から御祈りいたします。

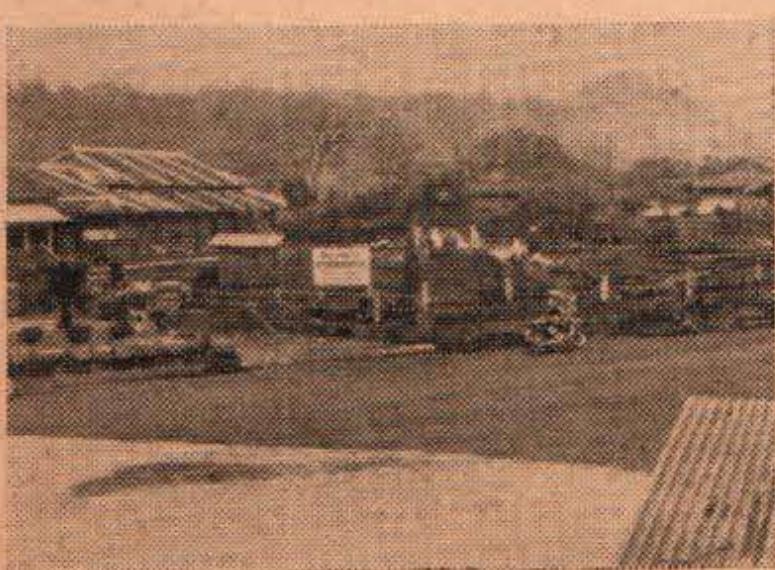
昨年、新春のお喜びを申し上げますとともに皆様の御多幸と御健康を心から御祈りいたします。昨年、蒲生町教育界の歩

町民の殿堂

体育館建築 着工

去る十二月十三日起工式を終った蒲生町体育館建設は、地元税所組によって、順調に工事が進められてい

総坪数 約二一坪
総工費 約一八〇万円
落成 五月末の予定



成人の日

一月十五日は「成人の日」であります。おとなになつたことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日であります。

一般の人こそぞつてこの日の意義を認め、成人となつた青年に心から祝福と激励をおくりましょう。

当日は、

午前九時三十分から蒲生町役場第三会議室において成人式、記念品授与が行なわれ、そのあとレクリエーション映画の上映が計画されております。

又成人者を祝福する意味で町内駅伝競走十五地区対抗戦も正十二時出発することになっております。

○成人式には現在持合せの清楚な服装で参列しましょう。

○父兄も成人式に参列される方が望ましいと思ひます。

(町社会教育課)

新春に誓つて

輝かしい一九六六年の新春を寿ぎ、心して一陽来福の朝を迎えたい。

「今年こそ……は」

といつて意を新に張切るのが毎年のことであるが、その意欲的な姿勢がどこまで続くか、それによつて人の世の勝負が決まる。

とかく人間は、出発点にたつたときには大いに意欲も燃やすが、その途中になつて投げ出してしまふのだ。それを人々は「根性」がないという。そのとおりであるかも知れない。

青年に希う

一九六六年。また一つ新しい年が生れた。昨年の新春もそうであつたように、何かこのケジメで自分の素晴らしい夢を描き、決意し、希望を抱いていることでしょうか。

人間の生涯とは、所詮こゝうしたことゝの繰返しでありそれが継続するか、断絶するかによつて成功もし、失

だが、一口に「根性」とはいつてもその「根性」が簡単に身につくものではない。日頃のたゆまない鍛練で、心身共に磨きあげ、それなりの力がついてこそはじめて「根性」が生まれてくるものである。

口先だけの誤魔化しで綱渡りのように危なく世間を渡る連中には、「根性」など持てる筈がないのである。それを思うと今こそ一つ自分を磨いてみようと思ふのだ。あなたとともに

社会教育課

敗もするのだ。

何か一つの事を具体的に遂げようと計画したとき、その方法は二つある。

一つは「こういう事はしないように」という消極的な方法。いま一つは「ぜひこういう事をしよう」という積極的な方法だといえる。青年諸君に希ふことは、少なくとも後者の積極的な人生素ランを立て、ほしいことだ。そして意欲的、能動

的な決意や希望のなかから新しい青年の生活を開拓してほしい。

日本の農業が当面している問題は、いよいよ深刻の度を加え、日本の青少年が負うべき責務は一層重大である。

誰かがしなければならぬ、どこかではじめなくてはならぬ、政府が県がそして町がやってくれるのを手をこまねて待つてゐるわけにはいかぬ。

一大虚に吠えれば、万犬実をつたえる。われわれの仕事は虚吠の如きものであつたかもしれないが決して無駄ではなかつた。われわれは今年も声を大にして、咆哮をあげようと思ふ。

心に火をたく
献本運動御協力ありが
とうございました

早速献本運動推進協議会に左記の方々からそれぞれ寄附をいただきましたので御意志にそつて有意義に活用させていただきます。

記

大重兼信(中原上)

五、〇〇〇円

石神 堅(中原上)

一〇、〇〇〇円

馬渡義夫(西)

一〇、〇〇〇円

山口正志(西)

五〇〇円

朝倉文三外二〇名(社野)

三〇〇円
外献本一冊

野田典男(辻下)

一〇、〇〇〇円

野村豊邦(辻下)

献本十九冊

蒲生町天理教信

者有志一同

二、〇〇〇円

みんなで守りましょう

年始の新生活

家庭中心で楽しい正月にしよう

○ 家族そろつて楽しい正月にしましょう。

○ お互に儀礼的な廻礼贈答はやめましょう。

○ 成人式には必ず平服で参加しましょう。

○ 家ごとに国旗をかゝげましょう。

○ 交通道德を守りましょう。